

最終更新日：2018年4月27日

生活科・総合的な学習の時間で育てたい資質・能力に関する研究

【プロジェクト代表者】
教職教育院
助教
菅沼 敬介

キーワード

・教科横断的 ・資質・能力 ・主体的・対話的な深い学び

プロジェクトの内容（目的・方法・結果と意義）

目的：新学習指導要領において各教科共通の「資質・能力」から、生活科・総合的な学習の時間の独自性を見出し、指導方法を構築し、将来教員となる本学学生にとって有意義で充実した学修を提供できるようにすることを目的とする。

方法：①生活科・総合的な学習の時間の認識に関する実態調査
②生活科・総合的な学習の時間で育みたい資質・能力の先行研究分析
③生活科・総合的な学習の時間の授業実践
④「総合的学習指導法」の受講学生への意義と効果の調査

結果：①具体的であり、充実した活動や体験をベースとした学習の記憶は強く残っており、その内容は自身が教員になった際は授業実践したい
②生活科では「主体的に対象に関わる力」「じっくりと対象に関わる力」「思いや願いの実現する力」を育みたい
③総合的な学習の時間では「意欲をもって対象に関わる力」「学習を持続させる力」「協同的に学習する力」を育みたい
④担任が単元計画を立てる際、目的意識をもって作成し、授業実践を行うことで、児童生徒に、育みたい資質・能力の一端を育むことができることが明らかとなった。

成果の応用可能性（私たちの活動の成果は、このような分野にこのように貢献することができます。）

1. 学問的効果
(1)生活科で育むべき資質・能力の明瞭化及び具体化
(2)総合的な学習の時間で育むべき資質・能力の明瞭化及び具体化
2. 社会的効果
(1)生活科・総合的な学習の時間の授業実践の充実
(2)生活科・総合的な学習の時間で育むべき資質・能力を期待できる授業実践の提供
(3)福岡教育大学における「生活科指導法」「総合的学習指導法」の充実による卒業生の実践力向上
3. 研究の今後の展望
本プロジェクトの成果を、「生活科指導法」及び「総合的学習指導法」、「学校教育課題研究」に寄与することにより、それらの教科等に対する授業実践力の育成につながると思う。例えば地域性や子供の姿が確定していない学生の立場では作成し辛いと考えられる、生活科・総合的な学習の時間の仮想単元計画や仮想指導案の具体的な方向性や目標を提示できると考える。実際に平成29年度後期の「総合的学習指導法」の講義で本プロジェクトの成果を生かし取り入れた講義展開で実施している。講義の最終回には、受講学生に質問紙調査を行い、本講義の意義や価値を回答させている。80%を超える学生が「総合的学習指導法」に満足しており、教員志望の学生の100%が「総合的学習指導法」の成果を実際に試したいと回答している。この成果は、充実した高等教育に留まることなく、実際に教員になった際の力となると考えられる。

このプロジェクトの形成に寄与した制度等

平成29年度福岡教育大学研究推進支援プロジェクト経費

プロジェクト構成員（所属・職名・氏名・役割分担）

生活総合教育講座・教授・津川裕
・生活科・総合的な学習の時間の認識に関する実態調査の実施
・生活科・総合的な学習の時間で育みたい資質・能力の先行研究分析

教育学部・非常勤講師・福重秀人
・生活科・総合的な学習の時間の認識に関する実態調査の実施
・生活科・総合的な学習の時間で育みたい資質・能力の先行研究分析